

浄化槽の保守点検の回数低減や故障の早期発見を可能にする

浄化槽遠隔監視サービス「fuwamo（フワモ）」を新発売

フジクリーン工業株式会社（本社：名古屋市千種区、代表取締役社長：後藤雅司）は、2022年12月21日に浄化槽を遠隔で監視する新サービス「fuwamo（フワモ）FujiClean water monitoring system」を発売します。一部の機種種の浄化槽へ fuwamo を導入すると、運転状況を現場以外の場所から把握できるようになり、保守点検の回数低減や故障の早期発見などのメリットが得られます。



■浄化槽の保守点検と課題

浄化槽を設置すると、所有者である浄化槽管理者には、浄化槽法に定められた頻度で保守点検を実施する義務が生じます。点検の頻度は処理対象人員や処理方式によってさまざまですが、例えば工場やホテルなどに導入される膜分離活性汚泥方式の場合は週に1回。点検費が20,000円/回※とすると、その年間費用は1,040,000円となります。一方、点検を委託される浄化槽保守点検会社では、人手不足に直面し、必要な資格を有するスタッフの確保が悩ましい課題となっているケースもあります。浄化槽保守点検には、点検の義務を負う浄化槽管理者、それを請け負う浄化槽保守点検会社の双方に負担がかかっていることがあります。※金額は一例で、さまざまなケースがあります。

■遠隔監視機能で、保守点検の回数が半分に

2021年、環境省環境再生・資源循環局によって、遠隔監視機能※1を有する浄化槽は、保守点検回数が改められ、処理対象人員51人以上の膜分離活性汚泥方式は2週間に1回となりました※2。年間52回必要だった点検は、遠隔監視機能を導入することで半分の26回に低減でき、浄化槽管理者や保守点検会社の負担軽減が期待できます。

※1 ここでいう遠隔監視機能とは、遠隔地から、浄化槽の機能が適切に維持されていることを確認でき、異常時は速やかに適切な措置をとる体制が確保されていることをいいます。

※2 遠隔監視機能を有する浄化槽の保守点検の回数を定める件

(令和3年環境省告示第59号)の公布について

<https://www.env.go.jp/press/110045.html>

遠隔監視機能導入による保守点検回数の変化

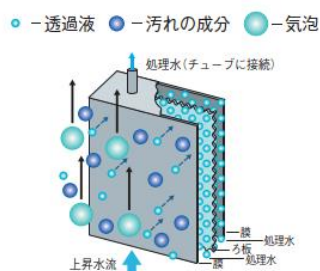
	遠隔監視機能	
	なし	あり
点検頻度	1回/ 1週	1回/ 2週
年間点検回数	52回/年	26回/年

■フジクリーンの遠隔監視サービス fuwamo（フワモ）で2次的なトラブルを防ぐ

fuwamo は、膜分離活性汚泥方式の膜分離装置※に遠隔監視できる圧力センサーを取り付けて膜差圧を監視。弊社の浄化槽では、PM型・PMJ型が対象となり、既設の膜分離活性汚泥方式の浄化槽に後付けすることも可能。センサーが通常と異なる膜差圧を感知し、膜の目詰まりや破損などの異常を推測します。特に膜分離装置の目詰まりやMLSS（活性汚泥浮遊物質）濃度の異常は、浄化槽にとって重大なトラブルを招くことがあり、異常を早期に発見することで、速やかに対処ができ、2次的なトラブルによって生じるコストの低減が期待できます。

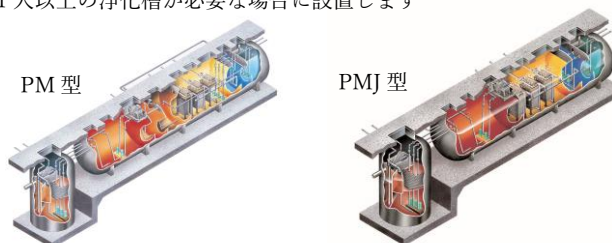
※膜分離装置とは、膜吸引ポンプで汚水から汚泥を漑し取り、きれいな処理水を排水する高性能フィルターです。膜の下からばっ気をすることで、表面に付着した汚れを洗い落とします。（左下イラスト）

※膜分離装置のしくみ



遠隔監視サービスが導入できる弊社の浄化槽 PM型・PMJ型

放流 BOD10 mg/L 以下の高度に汚水処理が必要な地域、かつ処理対象人員 51 人以上の浄化槽が必要な場合に設置します



fuwamo による遠隔監視機能のイメージ



■ fuwamo の利用について

fuwamo を利用するためには、浄化槽付近の通信環境や制御盤の設置状況等を確認したうえで、機器の取り付けと利用契約が必要となります。契約者様の浄化槽利用状況に合わせて、複数の料金オプションの中から、最適なプランを提示します。

■会社概要

- 社名 フジクリーン工業株式会社 ●本社所在地 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 ●代表者 代表取締役社長 後藤 雅司 ●設立 昭和36年2月16日
- 資本金 3億円 ●売上高 180億円 ●事業内容 浄化槽製造・販売・設計・施工、プロ販売 など

《このリリースに関するお問合せ先》

フジクリーン工業株式会社 <https://www.fujiclean.co.jp>

営業部営業企画課 濱 080-2666-6328

総務部総務課 鈴木 090-5431-7677